

やましろ

2009年3月

第7号



普及センターだより

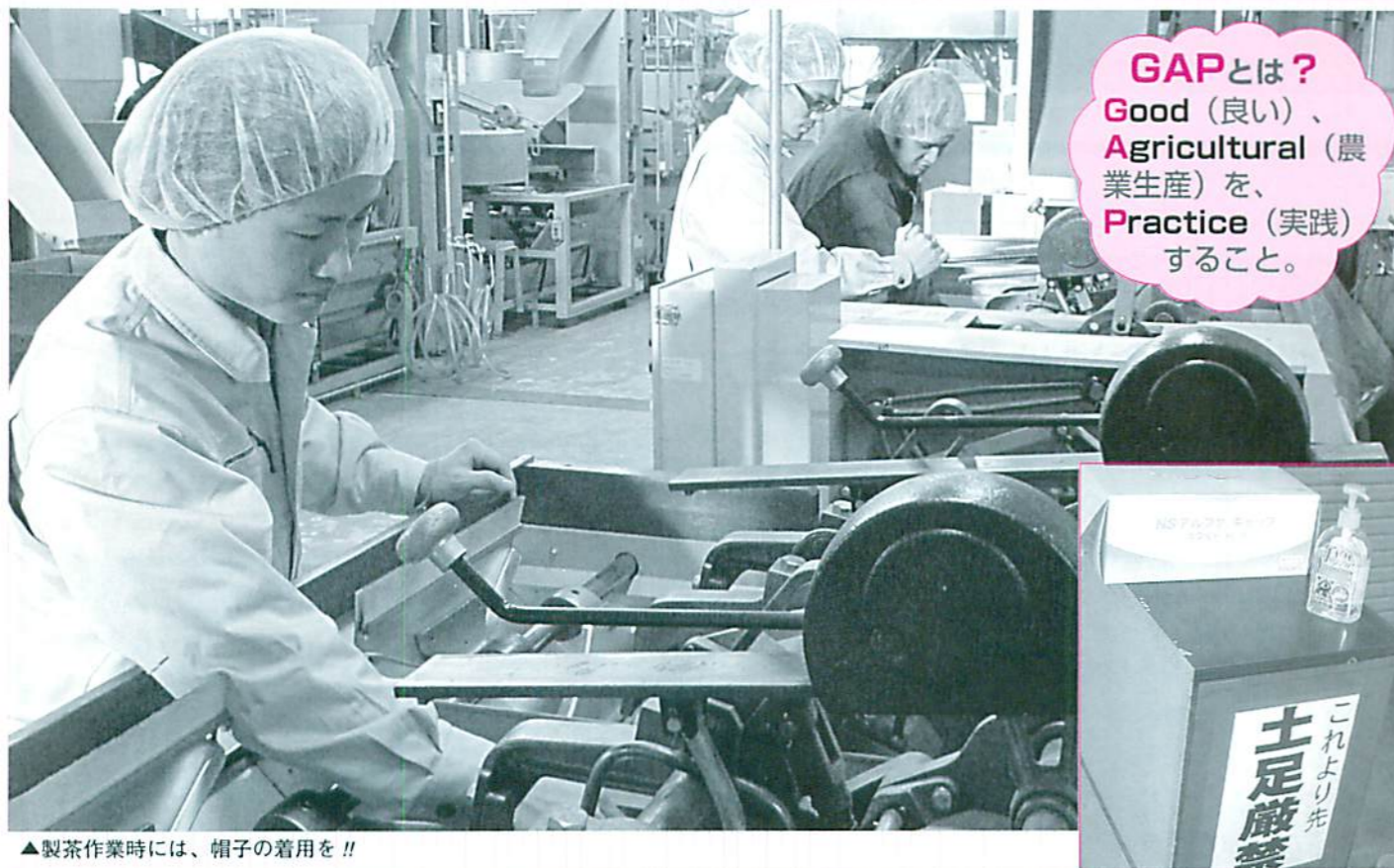
宇治茶

GAP(ギャップ)で安心・安全

昨今、農業生産現場には、おいしい高品質な農産物の生産はもとより、消費者の食の安心・安全のニーズに応える取組が求められています。

京都府を代表するブランドの「宇治茶」については、これまでからも生産履歴記帳などの積極的な取組が行われています。

普及センターでは、平成20年度から、より産地の信頼確保向上のため、異物混入の防止をはじめとした、GAP手法の推進に取り組んでいます。



GAPとは？

Good (良い)、
Agricultural (農業生産) を、
Practice (実践) すること。

▲製茶作業時には、帽子の着用を!!

GAP手法とは…

農産物生産の栽培・製造・流通の各工程毎に食品安全、環境保全、経営改善、品質向上、労働安

全等についてチェック・記帳を行うことにより、危害防止を図ろうとする手法です。昨年は、管内の10製茶工場実践されました。今年も、生産者・関係機関とも連携し、GAP手法の実践運動が拡大するよう活動していきます。

京都府山城北農業改良普及センター
〒610-0331 京田辺市田辺明田1 TEL.0774-62-8686

京都府山城南農業改良普及センター
〒619-0214 木津川市木津上戸18 TEL.0774-72-0237
ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/> からどうぞ



「農業技術の匠」の

下岡久五郎氏(宇治田原町)



▲知事と語る下岡夫妻(写真中央・左)

農林水産省が今年から選定を始めた「農業技術の匠」に宇治田原町の下岡久五郎氏が選ばれました。近畿ではただ一人で(全国で28人)、選定の技術「品種特性及び標高差等の組み合わせによる高品質茶安定生産技術」の普及に、ますます尽力されるものと期待されます。

平成20年度 京都府農業士に 認定された皆さん

今年度新たに、当管内から指導農業士3名、女性農業士2名、青年農業士4名の方々が認定されました。

今後の活躍が期待されます。

★指導農業士 (敬称略)

氏名	住所	部門
小林 巧	木津川市	施設野菜
畑 廣道	和束町	茶
内藤 芳男	南山城村	水稲・椎茸・茶

★女性農業士 (敬称略)

氏名	住所	部門
奥西 和子	京田辺市	水稲・茶
川井 和代	木津川市	施設野菜

★青年農業士 (敬称略)

氏名	住所	部門
水主 哲寛	宇治市	花き
菊岡 祐一	城陽市	茶
望月 藤嗣	城陽市	施設野菜・水稲
下岡 清富	宇治田原町	茶・古老柿

農林水産省

農山漁村女性チャレンジ 活動表彰に 小西真理子さん

南山城村の小西真理子さんが、平成20年度農山漁村女性チャレンジ活動表彰で農林水産省経営局長賞を受賞されました。農業経営への参画と家族協定の締結などを通じた男女共同参画社会の推進活動が高く評価されたものです。

今後も、ますますの活躍を期待しています。



▲家族経営協定について講演する小西さん(中央正面)

告知 平成21年度 山城地域・担い手養成 農業基礎講座を開講

時期 平成21年6月～8月(全8回予定)
場所 府田辺総合庁舎他
募集対象者 山城管内の就農5年未満の農業者(ただし、家庭菜園の方は除きます。)
その他 「野菜」「茶」などの専門項目をテーマとした「栽培基礎講座」も予定しています。

*詳細については、山城北・南普及センターまで問い合わせください。

新規に開設

女性起業アグリビジネス創生塾

山城地域の農家女性や非農家の女性を対象に、起業家育成講座を開催します。講師には専門家も迎え、女性のための新しいアグリビジネス(農産加工・農家レストラン・農家民泊など)の開設支援を行います。

1年目:基礎講座(起業家活動のための基礎とビジネスプランの作成)

2年目:実践講座(基礎講座修了生を対象として実践的な知識習得と専門家からのアドバイス)

募集人数:20名程度

*募集は6月頃になります。多数の参加をお待ちしています。

～農薬は適正保管・安全使用!～

●環境にやさしい技術

JA 京都やましろ都々城共撰組合

トマトで総合的害虫管理を実践



近年のトマト栽培では、トマト黄化葉巻病の伝染源であるタバココナジラミの発生が問題になっています。普及センターでは、八幡市の都々城共撰組合ハウス部会のトマト生産者10名に、タバココナジラミ防除に有効とされる目の細かい防虫ネット（目合い0.4mm）と黄色粘着板及び天敵農薬を組み合わせた「総合的害虫管理」技術を提案し、調査実証ほを設置しました。その結果、この技術が有効であることが認められ、より細かいネットへの張り替えが進みました。

今後、生物農薬・天敵農薬の施用時期の判定を生産者が習得すれば、この技術の周辺地域へのさらなる普及が期待されます。

今後、生物農薬・天敵農薬の施用時期の判定を生産者が習得すれば、この技術の周辺地域へのさらなる普及が期待されます。

●地産地消

「いただきます。地元産」プラン山城地域推進協議会

学校給食に地元産食材を

平成16年度から、京都府の「いただきます。地元産」プランにより、地元産野菜の学校給食への利用推進に取り組んだ結果、当初の55校から平成18年には91校（管内小学校113校中給食に取り組む学校数）となりました。

本年は1月29日に、山城地域推進協議会を開催し、市町村の農林及び教育委員会の給食担当課、府関係機関と直売所が出席し情報交換を行いました。学校側からは地元産野菜供給への要望が、直売所側からは配達時間や労力に係る課題や出荷調整の苦勞について意見がありました。

昨年9月に普及センターが実施した直売所へのアンケートでは、地元野菜を供給するのは8箇所（回答直売所21箇所）で、供給量・価格・規格等の調整が課題となっています。

今後、供給量を増やすため、市町村段階での供給体制整備や学校教育現場での食農教育を支援することとしています。



▲「いただきます。地元産」プラン山城地域推進協議会の様子



●大成功！おいしい！！

地元産小麦で作った手づくりパン

久御山町佐古麦生産組合は、山城地域で唯一、パン用小麦品種「ニシノカオリ」を生産（約5.2ha）し、大部分は全農出荷ですが、一部を小麦粉にして地元直売所で販売しています。

そこで、普及センターでは地産地消の推進として、小麦の地域内利用を拡大するために八幡市の「京・流れ橋食彩の会」にパンの試作を依頼しました。「ニシノカオリ」のグルテン含量は外国産小麦に比べて低く、膨らみにくいという課題を技術でクリアーし、パンの商品化に成功しました。

大変香りと味の良いパンができたので、「京・流れ橋食彩の会」では、パン作り体験教室での利用を計画しています。

今後、山城産小麦の利用拡大が期待されます。



▲パンの試作に励む 京・流れ橋食彩の会

●新技術

JA 京都やましろ精華町花き部会

ミニおどりハボタン3本仕立て

精華町では、平成18年から5人の生産者が、パンジーやビオラに替わる冬期の新しい出荷品目として、農業総合研究所の開発した技術によるミニおどりハボタン3本仕立ての商品化に取り組んでいます。普通にほ場に植えて栽培すると背が高くなる品種でも、9cm程度のポットに植えて、生育期間中にわい化剤を散布し、施肥量およびかん水量を少なくすることで草丈が15cm程度のミニおどりハボタンにすることができました。

さらに、主枝を摘心して葉を数枚切除することで分枝を発生させて3本仕立てにすることができます。毎年11月に開催される京都府花き品評会において、平成19年に農林水産大臣賞、20年に京都府知事賞を受賞し、本格的な産地化を目指す励みになっています。

